

ヨコハマ人・まち

第24号

～まちへ人がまちをつくる～

発行：横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課 TEL045-671-2696 FAX045-663-8641
Email: tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

【ヨコハマ人・まち 目次】

- 各地のまちづくり助成金事業～まちづくり活動のきっかけづくり
- 元気なまちづくり！和田町いきいきプロジェクト
- まちづくり活動情報（募集案内）

* 各地のまちづくり助成金事業 *

～まちづくり活動のきっかけづくり

横浜市には「ヨコハマ市民まち普請事業」
<http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/machibushin/index.html>

という、市民からの身近な生活環境の整備に関する提案に対して助成金を交付して市民が主体となったまちの整備や維持管理を支援する事業がありますが、全国各地でこのようなまちづくりに対する助成事業が広がっています。

そこで今回は、

- ・広島県広島市の「ひと・まち広島未来づくりファンド」
<http://www.hitomachi.city.hiroshima.jp/jimukyoku/hm2HP/index.html>、

- ・東京都世田谷区の「世田谷まちづくりファンド」
<http://www.setagaytm.or.jp/trust/center/fund/index.html>、

- ・練馬区の「福祉のまちづくりパートナーシップ区民活動支援事業」
http://www.city.nerima.tokyo.jp/shogaisha/fuku_machi/partner/partnership-top.html、

- ・千代田区の「千代田まちづくりサポート」
<http://www.mm-chiyoda.or.jp/project/suport.html>

についてご紹介するとともに、まちづくり助成金事業がまちづくり活動のきっかけづくりにもなっていることをご紹介します。

それぞれの助成金交付の特徴

広島市の「ひと・まち広島未来づくりファンド」と世田谷区の「世田谷まちづくりファンド」は、公益信託（公益信託とは、委託者が財産を一定の公益目的のために信託し、受託者（銀行）がその財産を管理・運用しながら公益目的の実現を図っていく仕組みです）の制度により市民によるさまざまなまちづくり活動を支援しています。

また、練馬区の「福祉のまちづくりパートナーシップ区民活動支援事業」は、「福祉のまちづくり総合計画」を区民と区のパートナーシップで推進することを目的とした事業で、12のアクションプランとの整合性も求められているのが特徴です。

まちづくり活動の一步

どの助成金にも団体を育成する部門が設けられていて、これから主体的にまちづくり活動の一步を踏み出そうとしている活動に対して助成が行われています。

今年度、広島市の「団体育成助成部門」では、里山整備と市民交流の場づくりをテーマとした活動や、お手玉をとおして地域とのふれあいの場を提供する活動など7つの団体に助成金が交付されました。また、練馬区の「はじめの一步助成部門」では、認知症予防推進員養成講座を終了した方々で立ち上げた団体の活動など、これから地域に活動を根づかせていこうとする3つの団体への交付が決定しました。

助成金が交付される活動には、公共性や創意工夫はもちろん、地域での多様な連携や活動の輪を広げる仕掛けが具体的に盛り込まれていることも大切なポイントのようです。これから活動を広げていこうという団体にとって、同様の活動をしている他の団体との連携だけでなく他の分野の団体と協力することはとても重要なことで、課題を解決したりアイデアを出し合ったりする上でも必要になります。



広島での様子

まちづくり活動発展への助成

活動が始まったばかりのグループを対象とする部門とは別に、4つの地域の助成金事業とも活動を発展させる部門が用意されています。

今年度、広島市の「まちづくり活動発展部門」には15の提案があり、広島の川通りや水辺を活用したまちづくり、昔からある地域の山藪を使ってのまちづくりなど、8つの団体に交付が決定しました。どの提案にも、地域の特性を生かした内容や、それぞれの課題を解決したいという思いが込められていましたが、その背景には何年も前から継続した活動があり、多くの方々に活動が支えられていることが発表からも伝わってきました。

やはりそれぞれの活動を発展させていくためには、その課題を感じ、また地域に住む当事者の方々が参加した活動になっているかどうか重要な点になっているようです。また、活動メンバーの広げ方には工夫が必要ですが、メンバーに多様な方々が入っていることも、地域のまちづくり活動が発展していく鍵になっていると言えます。

まちの拠点づくり活動への助成

横浜市と同様に、広島、練馬、世田谷でも施設整備に対しての助成部門が設けられています。世田谷では「まちを元気にする拠点づくり部門」がそれにあたります。

今年は、野沢3丁目遊び場づくりの会による「地域のアオシス・テッターテラス《わくわく大作戦》」に交付が決定しました。開園して6年になる遊び場をさらに地域に開かれた拠点にする工夫が盛り込まれた提案です。安全性が第一であるという点はもちろんのことですが、運営委員の方々からも「芽が出てからも、いろいろな人が種を蒔ける場となっていってほしい」「ハードで完璧なものをつくれなくても、ソフトで補う視点を大切にしてほしい」という応援メッセージが寄せられていました。

また、練馬区では3つの施設整備に交付が決まりましたが、そのなかにはまちにベンチを設置するという提案がありました。審査委員の方は、ベンチを設置した後そのベンチを活用してまちづくりにどう発展させるかが大切だとおっしゃっていましたが、提案には、ベンチを中心としたオリエンテーリングコースを作って地域の人に参加を呼びかけたり、ベンチに設置する絵を子ども達に書いてもらう工夫や、楽しんで散歩できるようなまちづくりをするという計画が盛り込まれていました。



広島の様子



世田谷の様子

まちづくり活動のきっかけづくり

現在どの地域でも年代を超えた人々とのコミュニケーションが少なくなっています。

災害や緊急時のためだけでなく、地域で孤立したお年寄りや若い世代がお互いに知り合い、交流が発展するようなまちづくりには、そこに住む地域の方々の参加が必要です。

同じ市内でもその地域によって課題は異なっているものですが、地域に住む市民の活動が、それぞれの課題を横糸でつないで解決に導く重要な役割を果たしているのです。

そして今回ご紹介した助成金事業とその公開審査会は、応募する市民グループのみなさんや公開審査会に参加する一般市民のみなさんにとって、自分たちの活動を見直したり、ほかの活動事例やまちづくりのヒント、アイデアを聞く場にもなっていました。

ほかの活動から多くのことを学ぶだけでなく、さらに自分たちの住むまちをどのようなまちにしたいのかを考える場にもなっていると言えるでしょう。

よってらっしゃい、見てらっしゃい。 これが千代田流でい。

6月9日(土)、千代田区の「ちよだプラットフォームスクウェア」にて、第9回「千代田まちづくりサポート」公開審査会が行われました(主催：(財)まちみらい千代田)。

この助成事業は、千代田を元気ある、住みよいまちにしようと市民レベルでがんばっている活動や、これから始めようとする活動を応援するものです。交付される助成金は、(財)まちみらい千代田の賛助会員の会費によって支えられています。助成金のコースは2部門あり、一般部門には19団体、トライアル部門には2団体の応募があり、それぞれの団体によるプレゼンテーションと、審査の様子が公開されました。

一般部門に選定された「カンダユメラボ」は今回で3回目。「創る・伝える・広がる」をテーマに、武蔵野美術大学とのコラボで行った職人さんの話をきく「ばってんスクール」の過去の内容をまとめた教科書など、これまでの成果もアピールしつつ、学生が支えてきたプロジェクトを今後、後輩にどうつたえていくかという継続性を中心に訴えました。

他にも、「魁! 神田塾」は神田っ子の育成、「千代田文化会」は高齢者によるまちの活性化、「CAPPS」は公園を自ら守る活動など活動内容のプレゼンテーションが繰り広げられました。

鈴木伸治審査会長(横浜市立大学国際総合学部)の総評では、「回を重ねるごとにレベルアップされ、プレゼンも工夫が垣間見られ個性が濃くなっている。活動の発展性も大いに期待したい。」と、応援の言葉がかけられました。

プレゼンテーションは、千代田っらしさが出た粋な演出が目立ち、見ている側も楽しめました。このような「らしさ」にならって横浜らしさを出していきたいと、やる気が伝わる審査会でした。

元気な まちづくり！ 和田町 いきいき プロジェクト

「和田町いきいきプロジェクト」には、学生発案で始まり現在は商店街主導で引き継がれている「和田べっぴんマーケット」、毎年テーマを変えてまち歩きをする「夏休み子どもまち探検」などがありました。こうしたプロジェクトには子どもからお年寄りまで、幅広い地元住民が参加しています。この連携こそがこのプロジェクトの強みでもあり、活動の大きな原動力になっているのでしょう。そして、活動を重ねることによって、ひとりひとりが生活の場所である和田町を深く理解していくことにつながっています。また、現在は空き店舗を利用した地域の活動・交流の拠点「WAD@CO」というスペースの管理も行いながら、イベント的な取り組みにとどまらない、情報紙・ホームページの作成などにも取り組んでいます。

プロジェクトは横浜国立大学において「地域交流科目」の1つとしても位置づけられています。地域交流科目は2007年4月にできたばかりの横浜国立大学地域実践教育研究センターが主体となり運営されています。工学系の建築、都市計画など複数の研究室から教員や学生が参加しており、市民のまちづくり活動やイベントなどのソフト面だけでなく、立地条件や建物などのハード面の手法をうまく組み合わせ、和田町らしさを更にのびしながら地域の活性化を進めています。このようにいくつかの研究室が横のつながりを持って取り組むことは全国的にも珍しいそうです。実践を通じて、商店街と大学が共に有意義な成果を得られる、まちづくりのひとつのモデルとなることが期待されます。また、学生発案の「和田べんプロジェクト（和田町商店街のお弁当を大学で販売）」は、工学系以外の学生も交えて新たに展開中です。

保土ヶ谷区和田町は横浜市の真ん中“へそ”に位置します。相鉄線と国道16号が並走するこの地域は住宅と畑などから構成されます。また、坂と路地からなる地域です。

横浜国立大学の最寄り駅でもあり、学生向けのまちでもあると同時に、商店街や公園もあり家族も住みやすく、実に多様な表情を備えたまちです。

「和田町いきいきプロジェクト」は、ここ和田町で、商店街、町内会、学校、行政等、様々な立場の人々が参加し、商店街を中心にしたまちづくりを考えることで、地域を盛り上げ、活性化しようとするプロジェクトです。事業を進めるための戦略などを検討しながら、イベントやワークショップなどの取り組みを繰り返しています。

当初、この「和田町いきいきプロジェクト」は、2001年4月からの期限（3年間）付きの計画で、保土ヶ谷区と横浜国立大学の共同研究「商学交流事業」として進められていました。プロジェクトは、4年目には地元にとって必要不可欠なものとなり、2005年4月、このプロジェクトを引き続き実施する組織として「和田町タウンマネジメント協議会」が発足しました。



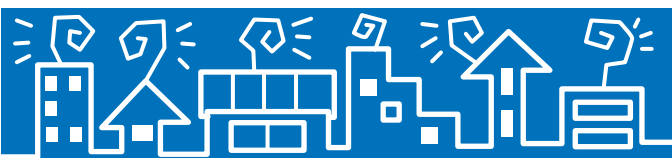
現在は、財務基盤の安定化や、事業を商店街に引き継いでもらうための体制づくりを整えています。また、学生には卒業という期限もあり、学生発案の多様な企画をどう継続していくかの検討も重ねています。

「和田町タウンマネジメント協議会」はこの夏も楽しい企画を考えています。まずは恒例となった7月の第11回べっぴんマーケット。和田町商店街の中通りを歩行者天国にして、開催されます。フリーマーケット、商店街各店のたくさんの露店が並びます。地元有志や国大の企画ブースなど催しも様々です。

さらに、毎年恒例の保土ヶ谷3大祭りの一つである地蔵まつりが、8月23、24日に行われます。盆踊りやライブ、演芸など、学生たちから生まれた催しや、子どもが楽しめる企画も盛りだくさん。夏の風物詩、にぎわいと伝統のあるお祭りです。親しみやすい和やかな雰囲気です。和田町らしさが伺えます。

※ニュース速報！

一連の取組みが評価され、この6月、和田町タウンマネジメント協議会は、『第5回日本都市計画家協会・横浜支部賞』をいただきました。



よこはまのまちづくり活動情報 (募集案内)

夏休み 自助具製作教室

誰もが使いやすい便利な自助具の製作体験と自助具利用者との交流会

- 日時：2007年8月18日(土)と25日(土)
13:00~16:00
- 会場：かながわ県民センター12階 第2会議室
- 主催：神奈川県社会福祉協議会 ともしび運動推進担当
- 連絡先：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
TEL 045-312-1121 内線3300
- ★ホームページ
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/bff/>
メールアドレス bff@jinsyakyo.or.jp
- 参加費：500円
- 申込締切：8月10日まで。小学5年生から高校生各回10名程度
- 備考：往復はがき、FAX、E-mailのいずれかにて希望日、住所、氏名、学年を明記して申込み。
※当日は作業しやすい服装でお越しください。

2007よこはま川のフォーラム 関連企画 大岡川中流域を歩こう【クリーン大岡川で、カルガモの親子に会えるかも!?!】

「大岡川」は昔から私達の生活や経済を支えてきました。大岡川流域のこの辺りは、遠く奈良平安の時代から弘明寺観音があり多くの人々の信仰を集め、開港以降は捺染工場が並び、「横浜スカーフ」を生産してきた地域です。

今回はこんな横浜の横顔を見ながら、ガイドの案内で大岡川をさかのぼって歩きます。

- コース概要：(徒歩 約2時間半 コース内に一部アップダウンがあります。)
- 市営地下鉄弘明寺駅→観音橋→弘明寺観音・公園→与七橋→大岡ポンプ施設→<リバーサイドウォーク>→大岡川プロムナード→青木神社→上大岡駅
- *ガイドコースは一部変更する場合があります。
- 日時：2007年8月18日(土) *雨天決行
受付開始 午前9時30分~ スタートは9:45頃
~10:00
所要時間 10:00~12:00~12時30分 (予定)
- 集合場所：市営地下鉄 弘明寺駅 改札
- 参加費：500円(保険料等)
- 持ち物等：帽子、水筒、歩きやすい靴 *小学生以下は保護者同伴の事
- 申込方法：Eメールで sanka11@ycga.com に下記項目を送信して下さい

- ①お名前と年齢(複数の場合は代表者と参加人数)
 - ②郵便番号、住所および電話番号
- 問合せ：NPO法人 横浜シティガイド協会事務所
開所：月、火、木、金曜日 10~16時
Tel/Fax. 045-662-2560
 - 主催：NPO法人 横浜シティガイド協会
 - 共催：大岡川流域まちかわ衆
 - 後援：横浜市環境創造局
- *万一事故が発生した場合、主催者は保険に加入している範囲以内及び応急処置以外の責任は負いません。



●まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取り組みなどの情報を下記までお知らせください。このページ及びメールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

情報提供のあて先：

横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課

TEL : 045-671-2696 FAX : 045-663-8641

e-mail : tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」は地域まちづくりに関心のある方への転送、メールマガジンへのお誘い大歓迎です。メールマガジンの配信申し込み・停止は、下記のアドレスからお願いいたします。

<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi>

★「ヨコハマ人・まち」バックナンバーはこちら

http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/hitomati/back_num/index.html